

# 西日本豪雨災害における被災文書の保全活動

広島県立文書館

平成30年7月の西日本豪雨は、広島県内各地（広島市、呉市、東広島市、三原市など）に浸水や土砂くずれなど甚大な被害をもたらし、多くの公文書や地域資料が被災しました。広島県立文書館では、被災時の相互協力協定を結んでいる広島大学文書館や、活動を再開した広島歴史資料ネットワークとともに、全史料協や史料ネットなど各地からの支援と協力を得ながら、被災した文書の保全活動に取り組んでいます。ここでは、被災から現在まで4か月間の当館での保全活動の状況とボランティアとの協働などを紹介します。

## 1 被災状況の把握と各地からの保全活動への支援

### (1) 広島県内の被災状況の把握

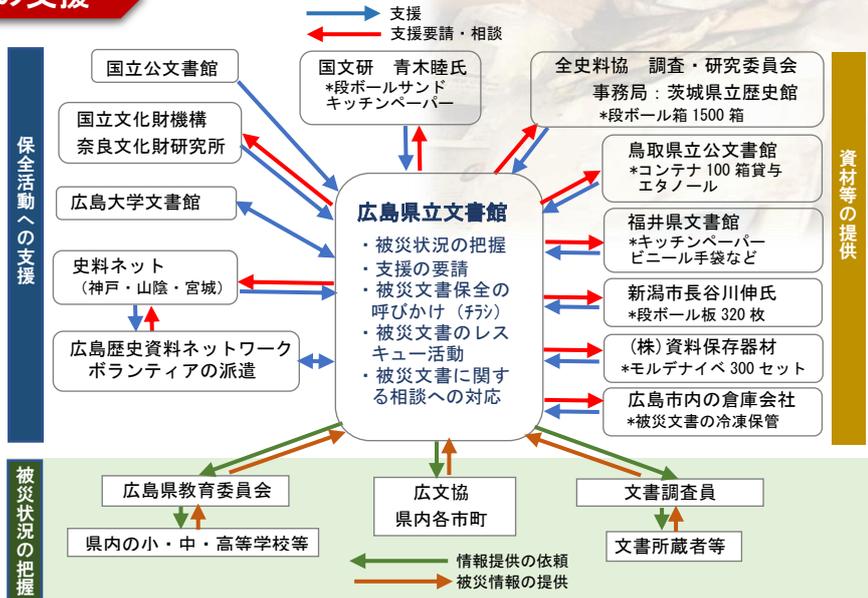
- 広文協会員市町に被災情報提供を依頼
- 県教育委員会を通じて県内各学校の被災状況を把握
- 文書調査員に被災した可能性のある文書調査を依頼

### (2) 被災文書保全の呼びかけ

- ちらし作成・配布「捨てないで大切な地域の文書・記録」「水害などで水に濡れた文書の応急処置」
- 文書館のホームページに文書の保全に関する情報を掲載

### (3) 各地からの保全活動への支援

- 広島大学文書館に被災時の相互協力協定により支援を依頼 → 広島大学で被災文書の乾燥作業を開始
- 全史料協、史料ネットなど各地からの支援と作業等への協力
- 広島歴史資料ネットワークの再組織とボランティア派遣
- 資材等の提供・協力
  - ・ 全史料協 調査・研究委員会（事務局：茨城県立歴史館）
  - ・ 鳥取県立公文書館、福井県文書館
  - ・ 国文学研究資料館 青木睦氏
  - ・ 新潟市歴史文化課 長谷川伸氏
  - ・ (株)資料保存器材、広島市内の倉庫会社



## 2 被災文書の保全活動

### ■ 被災文書の乾燥作業

- ・ 作業場所 文書館地下2階荷解室, 2階研修室
- ・ 作業手順 濡れた文書に吸水紙を挟み込み、縦置きにして送風乾燥。カビはエタノールで抑制、換気に注意
- ・ 作業服装 防塵マスク (DS2) と使い捨ての手袋・エプロンなどを着用



①濡れた文書のページを開き、吸水紙（キッチンペーパー・新聞紙サンド）を挟み込む。  
②表紙と裏表紙をキッチンペーパー・段ボールサンドで挟んで、スズランテープで縛る。  
③文書を移動式書棚に縦置きにして、サーキュレーターで風を当てて乾燥させる。



▲広島大学での乾燥作業



▲7/30・31 史料ネットの支援  
カビ損のひどい文書をポリ袋でパッキングして冷凍保管



▲固着した軸物の展開作業



▲8/8 青木睦氏のサポート

被災文書のレスキュー状況一覧表

受入	返却	被災文書	内容	数量	備考	作業
7/12	8/31	安芸郡海田町 A 神社文書	宮司家・神社関係文書、旧役場文書	コンテナ9箱	濡れ・泥固着	文
7/13	8/30	広島市立深川小学校文書	小学校の公文書	フラットファイル 1,214点	濡れ	文→広
7/19		呉市クリーンセンターくれ受入文書	屏風(下張り文書)	4隻	カビ損	文
7/23		福山市 B 神社文書	神社の現用文書	コンテナ22箱	濡れ・固着・カビ損	文
7/26		広島市 C 家文書	家業(酒造業)関係、その他家文書	コンテナ・木箱など44箱	カビ損大文書→冷凍	文・広
7/27	10/20	呉市立音戸小学校文書	卒業証書台帳	14冊	濡れ	文
7/31	10/10	呉市立安浦小学校文書	卒業証書台帳、沿革誌	10冊	濡れ・固着	文
8/17	12/19	三原市本郷公民館所蔵文書	和書	101冊	濡れ・固着・カビ損	文
8/17		三原市 D 神社文書	小学校教科書・書画類	104点	濡れなし	文
8/21	12/19	三原市大草公民館所蔵文書	大草村役場文書	コンテナ9箱(374点)	濡れ・固着・カビ損大	文

\* 作業担当 文=文書館、広=広島大学文書館

## 3 ボランティアとの協働

- 被災文書レスキューのボランティア作業
  - ・ 毎週火曜日・木曜日 10:00~16:30
  - ・ 広島歴史資料ネットワークに登録・派遣
  - ・ ボランティア保険に加入
  - ・ 8月~10月 県内外から、のべ80名参加職員も交代で作業に参加
  - 12/11~12/13
  - ・ 史料ネットとボランティアのみなさんとの協働で冷凍保管中の文書（段ボール箱20箱分）の解凍・乾燥作業を行う予定



▲ボランティア作業の様子 (B2 荷解室)



▼固着した文書のページを1ページずつ開く作業



▼ボランティア作業の様子 (2F 研修室)